

15:22 そういうわけで、私は、あなたがたのところに行くのを幾度も妨げられましたが、
15:23 今は、もうこの地方には私の働くべき所がなくなりましたし、また、イスパニアに行くばあいは、あなたがたのところに立ち寄ることを多年希望していましたので、

15:24 ……というのは、途中あなたがたに会い、まず、しばらくの間あなたがたとともにいて心を満たされてから、あなたがたに送られ、そこへ行きたいと望んでいるからです。・・

15:25 ですが、今は、聖徒たちに奉仕するためにエルサレムへ行こうとしています。

15:26 それは、マケドニアとアカヤでは、喜んでエルサレムの聖徒たちの中の貧しい人たちのために献金することにしたからです。

15:27 彼らは確かに喜んでそれをしたのですが、同時にまた、その人々に対してはその義務があるのです。異邦人は霊的なことでは、その人々からもらいものをしたのですから、物質的な物をもって彼らに奉仕すべきです。

15:28 それで、私はこのことを済ませ、彼らにこの実を確かに渡してから、あなたがたのところを通過してイスパニアに行くことにします。

15:29 あなたがたのところに行くときは、キリストの満ちあふれる祝福をもって行くことと信じています。

15:30 兄弟たち。私たちの主イエス・キリストによって、また、御霊の愛によって切にお願います。私のために、私とともに力を尽くして神に祈ってください。

15:31 私がユダヤにいる不信仰な人々から救

い出され、またエルサレムに対する私の奉仕が聖徒たちに受け入れられるものとなりますように。

15:32 その結果として、神のみこころにより、喜びをもってあなたがたのところへ行き、あなたがたの中で、ともにいこいを得ることができるようになります。

15:33 どうか、平和の神が、あなたがたすべてとともにいてくださいますように。アーメン。

パウロはイスパニアすなわちスペインへの伝道をするために、ローマに立ち寄りたいたいと思っています。それはローマで「心を満たされ」たいと思うからです。あなたによって心が満たされたい…などと言ってももらえるとしたら、何と言う幸いでしょうか。それも神の働きならば、より感謝です。

しかしパウロは経済的な支援のためにエルサレムに行こうとしています。このようにローマの人々にも祈りをお願いして、彼らを働きの同労者になってもらおうとしています。それはクリスチャンにとって祝福であり、誇りでもあります。ローマのクリスチャンたちはそれに答えたようです。

クリスチャンでも神の国の価値観が分らない人は、負担をかけたなら申し訳ないとか、負担をかけられたくないなどと遠慮するかもしれません。しかしそれは違います。主のために頼まれることは、同労者として認められていることであり、祝福のチャンスであり、誇りです。頼まれないことは逆に、認められていないことであり、さびしいことなのです。

頼まれる人になりましょう。そして主と人のために役立つことを喜びとし、がんばってみましょう。そして主の助けと幸いを経験しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

